



プレスリリース

平成 28 年 12 月 2 日 14:00

河南記者クラブ 会員各位
大阪科学・大学記者クラブ 会員各位

施設なすの I P M 体系マニュアルで殺虫剤を 4 割削減

大阪府内のなす産地では、無加温の施設で 12 月～2 月になすを定植し、3 月頃から果実を収穫する半促成栽培が盛んで、これから定植時期に入ります。

ミナミキイロアザミウマは、なすの果実にひっかいたような傷をつけ、商品価値を低下させる害虫で、多くの殺虫剤に抵抗性があるため、殺虫剤のみによる防除が困難です。

そこで、当研究所では、なすの被害を効果的に防ぐため、①赤色ネット、②天敵生物（スワルスキーカブリダニ）、③天敵微生物（メタリジウム菌）を組み合わせた I P M（総合的害虫管理）*体系を開発し、「施設なす（半促成栽培）のミナミキイロアザミウマの I P M 体系マニュアル」を作成しました。

行政機関や生産者団体と連携して現地ほ場での実証試験に取り組み、この害虫に対する殺虫剤の使用量をこれまでの慣行方法に比べて最大 4 割減らせることを明らかにしました。

特産なすの安定生産につなげるため、本マニュアルを活用していただきたいと思います。

①アザミウマの侵入を防止する赤色ネット



②アザミウマを捕食するスワルスキーカブリダニ



アザミウマの被害果



③アザミウマに感染するメタリジウム菌

* I P M（総合的害虫管理）とは、殺虫剤だけではなく、天敵、フェロモン剤、防虫ネットなど多様な方法を組合せ、害虫の発生を少なく維持する技術です。